

- 問1 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。

2. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。

3. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。

4. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。
- 問2 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 竪穴住居

2. 寝殿造

3. 書院造

4. 高床倉庫
- 問3 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため

2. 銅鐸 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため

3. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため

4. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため
- 問4 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 岩宿遺跡

2. 吉野ヶ里遺跡

3. 三内丸山遺跡

4. 登呂遺跡
- 問5 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

1. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため

2. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため

3. 木の美などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため

4. 大規模な稲作を行うための、種ちみを長期間保管するため
- 問6 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。

2. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。

3. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。

4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。
- 問7 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。

2. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。

3. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。

4. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。
- 問8 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 食料を保存したり、煮炊きを行うための日常的な容器として作られた

2. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた

3. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた

4. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた
- 問9 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

1. 琉球民族

2. アイヌ民族

3. 渡来人

4. 大和民族
- 問10 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

1. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた

2. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた

3. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた

4. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた
- 問11 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

1. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた

2. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した

3. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった

4. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ
- 問12 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)

1. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。

2. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。

3. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。

4. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
- 問13 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)

1. 登呂遺跡

2. 岩宿遺跡

3. 三内丸山遺跡

4. 吉野ヶ里遺跡